

Ⅱ 事業の概況

1. 指導事業

(1) 営農指導

管内の農業を取り巻く状況は、農業従事者の高齢化による遊休農地の増加、有害鳥獣被害による生産意欲の減退等、益々深刻化しています。

このような状況の中、出向く営農指導を最重要項目とし園地巡回を実施し、管内農業の現況把握に努め、農業経営支援を図りました。

また、農作物被害防止に向けた有害駆除を行政、伊東わなの会、熱海ワナの会、猟友会の協力のもと年間を通じて実施しました。有害駆除に対して例年どおり熱海市、伊東市からの補助金と、平成 25 年度より国から報償金支給が行われ経済的な負担が軽減されました。

また、捕獲意欲が促されたことで捕獲数が増加し、平成 25 年度上期はイノシシ捕獲数 307 頭・前年比 155.0%、シカ捕獲数 416 頭・前年比 163.1%となり被害は減少しました。下期は、里へ降りてくる個体数が減少したためイノシシ捕獲数 138 頭・前年比 41.7%、シカ捕獲数 166 頭・前年比 81.8%にとどまり被害は抑えられつつあります。その一方で、ハクビシン・ヒヨドリに対しては効果的な対策が無く、今後の課題と捉えております。関係機関と連携し被害防止対策に努めます。

① 柑橘

管内青島温州は、夏季の高温乾燥により小玉傾向にありましたが、10月の高温多雨の影響で果実肥大が促進され、浮皮が多く発生し着色も遅れました。柑橘委員による集荷時の立会指導で家庭選果が徹底されたことにより、品質保持がなされました。

一方、不知火は腐敗果が多発するなど品質面の問題が残りましたので、品質改善指導強化に努めてまいります。

高品質みかん生産及び柑橘の振興を目的に次の項目を実施しました。

- ア. 柑橘生産者大会及び柑橘品評会を開催しました。
- イ. 青島みかんは高品質生産を目的にフィガロン乳剤及びセルバインの散布推進に取り組みました。
- ウ. 老木樹の改植及び耕作放棄地対策として大苗を育苗し、温州 74 本、麗紅 82 本の苗を供給しました。
- エ. 不知火を中心とした中晩柑類の夏季土壤乾燥防止、肥大促進、減酸促進、有機質補給を目的に、ナギナタガヤの種子の継続供給に取り組み、本年度は 32 kg (約 1.1ha 分) を供給しました。

② キウイフルーツ

果実肥大と品質向上に効果のある枝別環状剥皮の継続推進を行いました。

第 23 回静岡県キウイフルーツ果実品評会において金賞 1 点、銀賞 1 点、銅賞 2 点に入選しました。全果袋かけを実施する管内キウイの品質の高さが証明されました。

いで湯っこ市場にてレインボーレッドとハイワードの間に出荷できるキウイとして、現在試験栽培を行っている黄色果肉系キウイ「東京ゴールド」に加え、静岡県育成系統の試験栽培を開始しました。

③ いちじく

大玉果生産のため、17 葉摘芯栽培を継続して推進しました。また、土壤病害対策として抵抗性台木を用いた接木栽培に加え、土壤検定結果に基づく個別肥料設計を継続実施しました。適切な施肥の実施により樹勢が強化、維持されました。

- ④ 花 き
会員による定期巡回を実施し、生産物の品質の向上に努めるとともに、連作障害対策として、緑肥の施用と土壌消毒を推進しました。
- ⑤ そ 菜
安全・安心・良質な農産物の提供を目指し、部会員を中心とした園地巡回と栽培講習会を開催しました。
- ⑥ 農業労災の労働保険事務組合
農作業中の事故の補償を受けるため、農業労災保険の加入をすすめ、平成 25 年度加入者 5 軒分の労災保険料 175,166 円を受け入れ全額納付しました。

(2) 生活文化活動

① 健康管理活動

組合員をはじめ地域住民の健康づくり支援を目的に、中伊豆温泉病院の協力を得て生活習慣病総合検診を行い 132 名が受診しました。また、受診後の結果報告会や女性部健康教室等、健康に対する意識の高揚に努めました。

② 女性部活動

「JA 女性部 3 か年計画～輝く女性（ひと）、仲間とともに～」の最終年度として以下の活動に取り組みました。

- ア. 部員家族等の食卓を安全・安心な食材で飾ることを目的とした手作り加工食品（みそ作り）運動の取り組みや、食と農が育む体験学習運動の一環として、子どもたちに農業体験の場を提供しました。
- イ. 豊かな暮らし地域づくりを目的に、施設援助などボランティアグループによる積極的な活動の展開や、環境を守る取り組みとして、資源ごみの回収、電気使用量の削減運動に取り組みました。
- ウ. 組織の強化や部員数の増加を目的に、女性部通信の発行、全体交流会、女性講座等の学習活動を展開し、部員相互の交流と加入の促進を図りました。

(3) 教育情報

食農教育の一環として、JAバンク教育活動助成事業を活用し、管内の全小学校を対象とした青島みかんの贈呈並びに早生みかんやキウイフルーツ（レインボーレッド）の収穫体験を実施しました。

青壮年部は例年実施している農業への思いを表現した手作り看板コンクールへ出品。また、25 年度は「愛をテーマとした創作門松」を制作し、いで湯っこ市場前に飾りました。環境美化活動として、女性部及び青壮年部、JA 役職員合同で長浜海岸の清掃活動に取り組みました。

(4) 相談業務

顧問弁護士・顧問税理士の協力をいただきながら、月 3 回の移動相談室を開催し、相続・贈与・登記・税・法律などの多岐にわたり、年間 59 件の相談に対処しました。

また、青色申告会を含む所得税の確定申告（90 件）や消費税の申告（4 件）の対応も行いました。

2. 販売事業

(1) 柑橘

全国の柑橘生産量は、表年にもかかわらず減少傾向にあります。管内の着花量は、園地によるバラツキはあるものの、裏年の割には、程よい着果が確保されました。生理落下後の着果量は、系統別にみると早生系統はやや多め、青島温州は平年並みとなりました。取扱量については青島が138.7トン、前年比138.8%で終了しました。

ポンカンの取扱については、年明けからの荷姿方法は選果機を通せるように変更し、生産者の箱詰め労力の軽減を図りました。

橙は、出荷申告量と集荷量の差が大きく、販売に苦慮しました。その結果、出荷申告方法に課題を残すものとなりました。橙の最終取扱量は136.6トンとなりました。

(2) キウイフルーツ

レインボーレッドは有袋栽培のため秀品質率が高く、静岡県品評会でも優勝するなど生産者の意欲向上がみられ、市場の評価も得ています。取扱量はレインボーレッドで前年比98.7%、ヘイワードで前年比66.9%となりました。価格面では、レインボーレッド前年比108.7%、ヘイワード前年比55.6%で終了しました。

(3) いちじく

春先から、天候に恵まれ、温暖に推移し、出荷は例年より1週間程度早く始まりました。取扱量は30,880パック、前年比121.2%となりました。価格面では前年比129.4%と良好な販売となりました。

(4) 花き

管内での小口取引が中心となりました。需要は高まりつつありますが、現状は品不足状態です。取扱量は5,752本(さつき・つつじ・ポット)、前年比66.5%となりました。販売高でも前年比66.2%となりました。

(5) ファーマーズマーケット

来店客は、2月上旬の大雪の影響により前年比89.2%まで減少したものの、3月には観光客も増加し前年比97.2%まで回復しました。販売高はマリンタウンの出店もあり、3億6,648万円、前年比112.5%で終了しました。

3. 購買事業

(1) 購買業務

農業従事者・耕作地の減少や量販店との価格競争の激化があるなか、JAが取り扱う良質なパイプハウス資材の需要が増加した結果、生産資材の取り扱いは計画を達成することができました。

生活資材については、シロアリ駆除の代行推進や飲料の供給は増加しましたが、購食米の供給の落ち込みが原因で計画は未達で終了しました。

購買業務の供給高は4億6,906万円、計画比93.8%で終了しました。

(2) 葬祭業務

組合員や地域の皆さまが安心してご利用いただける年中無休、24時間体制の葬儀運営に努めました。また、今年度は伊東市吉田に第三の葬祭場「伊東ホール」を新設しました。

管内で282件(南熱海ホール87件、宇佐美ホール74件、伊東ホール35件、寺院・自宅86件)の施行を行い、計画比80.6%、葬祭業務の供給高は3億8,915万円、計画比78.4%で終了しました。

4. 宅建事業

組合員の所有する資産の維持を基本として、ホームページ・インターネットや新聞等を活用し、大切な資産の運用を支援してまいりました。

事業収入で1,653万円（賃貸仲介115件387万円、売買仲介20件459万円、管理料ほか807万円）、計画比92.3%で終了しました。

5. 信用事業

組合員、地域住民の暮らしを豊かにする視点で、地域に密着した金融機関としての役割を発揮するとともに、信頼されるJAをめざして金融サービスの充実に努めました。

店舗においては、熱海支店の移転新装オープン、荻支店の改装リニューアルオープン、また荻支店では営業時間の延長（午後4時まで）を開始いたしました。

貯金は、40億2,285万円増加、計画比101.1%と目標達成することができました。主要取組項目の年金につきましても、目標を上回る1,008件の受給口座指定をいただくことができました。

貸出金については、住宅ローンを中心に新規・借り換え推進など獲得に努めましたが、管内においては消費税の増税に伴う住宅着工件数の増加もなく、15億4,664万円減少、計画比95.5%で終了しました。不良債権比率については、0.34ポイント改善され3.46%となりました。

6. 共済事業

地域を取巻く環境は、長引く景気の低迷により厳しさを増しております。また、少子高齢化が進み、JA共済の事業環境は厳しい状況にあり、さらに、生保・損保との競争も激化しております。

このような環境の中、組合員・利用者の皆様に「安心」と「満足」提供するため3Q訪問活動を展開してまいりました。

長期共済は、353億2,693万円、計画比107.0%の新契約を挙げることができました。しかし、満期到来額の増加と転換契約等による減少で期首保有高の維持ができませんでした。年金共済は、1億583万円、計画比105.8%の新契約を挙げることができました。

また、支払共済金は、事務処理の迅速化や効率化により共済金の支払日数の短縮など、組合員・利用者へのサービスの向上にも努めてまいりました。